

京の川の恵みを活かす協働活動について

1. 協働活動方針

- 学識経験者、農林漁業関係団体、行政の協働(京の川の恵みを活かす会)により、自然環境に配慮した鴨川の改修・整備に活かせる知見を得ることを目標として、調査・研究活動等を行う。
- 京都市都心部(三条～四条)における天然溯上のアユ釣りの復活や、鴨川をはじめとする京の川で育ったアユ、ハエ、ゴリ等の川床料理等での利用拡大を目指す。

2. 平成25年度の活動と成果

- 都心部への天然アユ溯上を目指し、区間で最大の落差を有する龍門堰(伏見区下鳥羽)及び都心部までの障壁である今井堰(伏見区深草)・三条・四条・丸太町落差工に仮設魚道を設置し、溯上状況を調査した。

{成果}

- ・ 6月下旬を中心に、約3千尾の天然アユが龍門堰の仮設魚道を通過し、少数は二条大橋から丸太町橋の間まで溯上していることを確認。ただし、平成25年度は渇水のために天然鮎の溯上量は例年に比べ著しく少なかった(参考:平成24年度の溯上数は約3万尾)
- 近隣の児童の仮設魚道見学への対応やシンポジウムの開催、鴨川の自然の恵みについての啓発・普及活動を実施した。

3. 平成26年度の活動計画(案)

- 昨年度に引き続き、龍門堰、今井堰、四条落差工、三条落差工及び丸太町落差工に設置する。なお、今井堰及び三条落差工は昨年度から仮設魚道の形状を変更する。
- 荒神口落差工に仮設魚道を新規設置し、天然アユ溯上域の上流への拡大を検証する。
- 魚道設置期間中に調査を行い、天然アユ等の分布・溯上状況等を確認する。
- 鴨川ならびに桂川下流域でアユの産卵場となる瀬の河床を耕耘し、改善効果を調査する。
- 溯上アユの観察会や調査結果の報告会などを開催する。

平成26年度鴨川簡易魚道設置（天然アユの道づくり）計画（案）

（1）設置目的

平成23～25年5～7月、鴨川の最下流に位置する「龍門堰（京都市伏見区下鳥羽）」に簡易魚道を設置（管理上アユの溯上期のみ）し、アユの溯上調査（数しらべ）を実施した。その結果、鴨川には、平成23年に約2万尾、平成24年に約3万尾、平成25年は激減し約2千3百尾の天然アユが溯上したことが明らかとなった。また、平成24年には、さらに上流の四条大橋下流の落差工、平成25年には、今井堰、四条大橋下流、三条大橋下流、丸太町橋下流の落差工（以下「四条落差工、三条落差工、丸太町落差工」という。）に、簡易魚道を設置した。

平成24年8月に実施した生息調査（すみかさがい）では、四条落差工、三条落差工の上流で、小型サイズ（10cm未満）のアユの生息数が激減し、丸太町橋落差工が、ほぼすべての天然アユの溯上を阻んでいることが明らかとなった。なお、平成25年は、溯上数（龍門堰を通過した天然アユの数）が少なかったため、龍門堰より上流の各魚道において、アユの溯上は確認できなかった。

秋の台風による増水があった翌年は、溯上数が増加する傾向（良好な産卵場が形成されるため）にあることから、平成26年は、平成25年に設置した5箇所（龍門堰、今井堰、四条落差工、三条落差工、丸太町落差工）に加え、新たに、荒神橋下流の落差工（荒神口落差工）で魚道設置を試み、天然アユの生息域拡大を図るものとする。

（2）設置期間

平成26年5月上旬～8月下旬

（3）設置場所と魚道タイプ

- | | |
|--------------|---------------------|
| ① 龍門堰（左岸） | 木積み階段斜路複合式魚道（昨年と同様） |
| ② 今井堰（左岸） | 木組み階段式箱型魚道（昨年：土のう） |
| ③ 四条落差工（左岸） | 土のう積み階段式魚道（昨年と同様） |
| ④ 三条落差工（左岸） | 土のう積み階段式魚道（昨年：ロープ） |
| ⑤ 丸太町落差工（左岸） | 木組み階段式箱型魚道（昨年と同様） |
| ⑥ 荒神口落差工（右岸） | 木組み斜路式箱型魚道（新規設置） |

※落差工は主として上流側の河床を安定させることから、上流側の通りの名称を付けることとする。

（4）その他

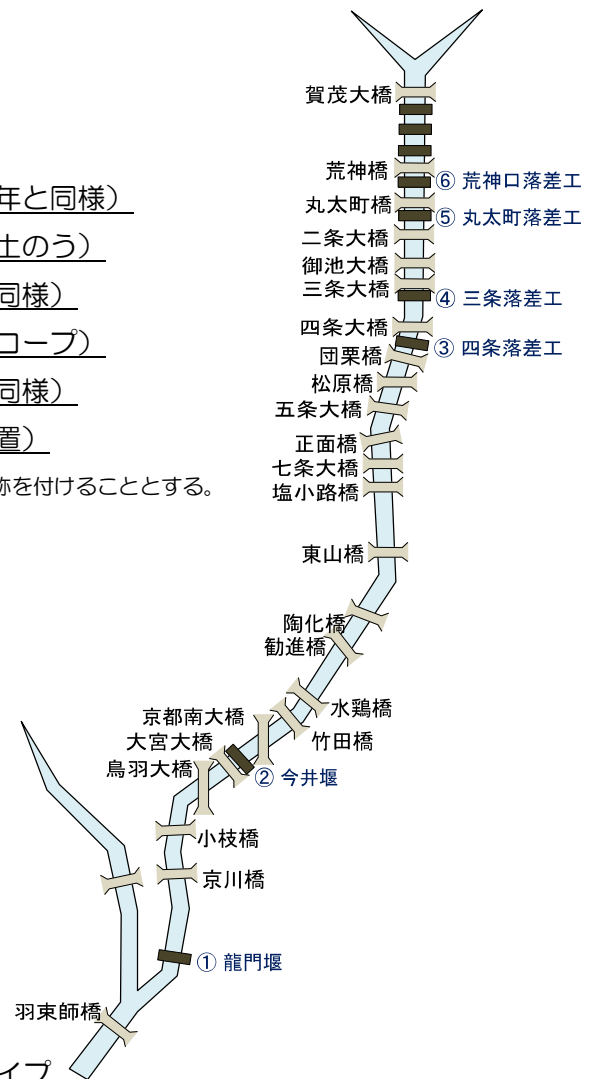
ア 魚道の名称について

下表の言葉の組合せ

材料・素材	作り方	方式 (淵か、瀬か)	(形状)
木	組む	斜路式 (瀬)	箱型
竹	積む	階段式 (淵)	三角錘型
鉄	垂らす	複合式	扇形
土のう			
石			
綱			

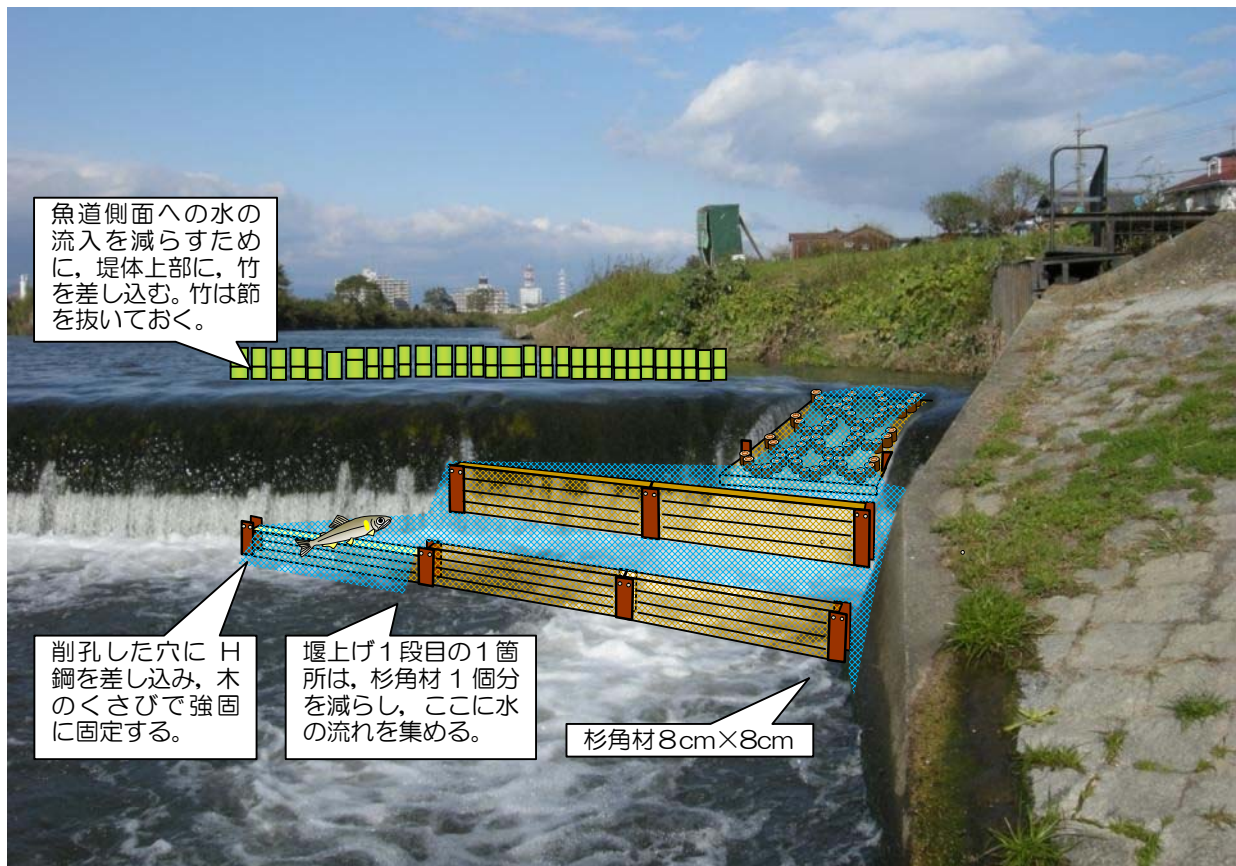
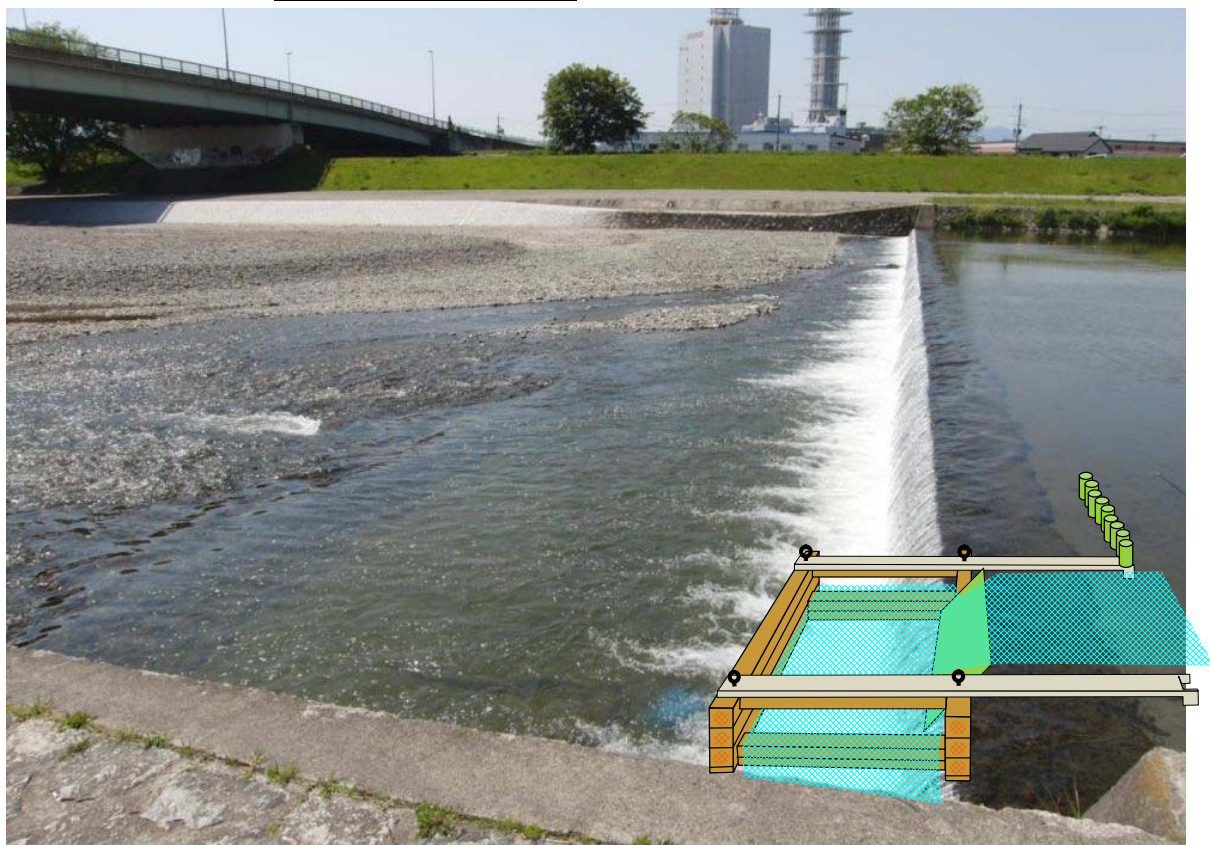
イ 簡易魚道の設計ポイントについて

- ① 斜路式は、傾斜をつくって、瀬をつくるタイプ
勾配は緩い方が望ましい。
- ② 階段式は、堰上げにより、淵（プール）をつくるタイプ
プールは広く、段差は低い方が望ましい。
- ③ 魚が魚道を溯上するタイミングは、増水後やや水量が落ち着いた頃に多い。流量は平水時よりもやや多い状態となるが、この時の魚道内に魚が上りやすい流れがつかれているかが重要である。
- ④ 材料は、木や竹などの自然素材を中心に、手づくりできるよう、人の手で運べる重さとする。
- ⑤ 魚道の入口は、魚が流れに逆らい行きついたところが入口となるよう、堰堤の下流側に出っ張らないように設ける。

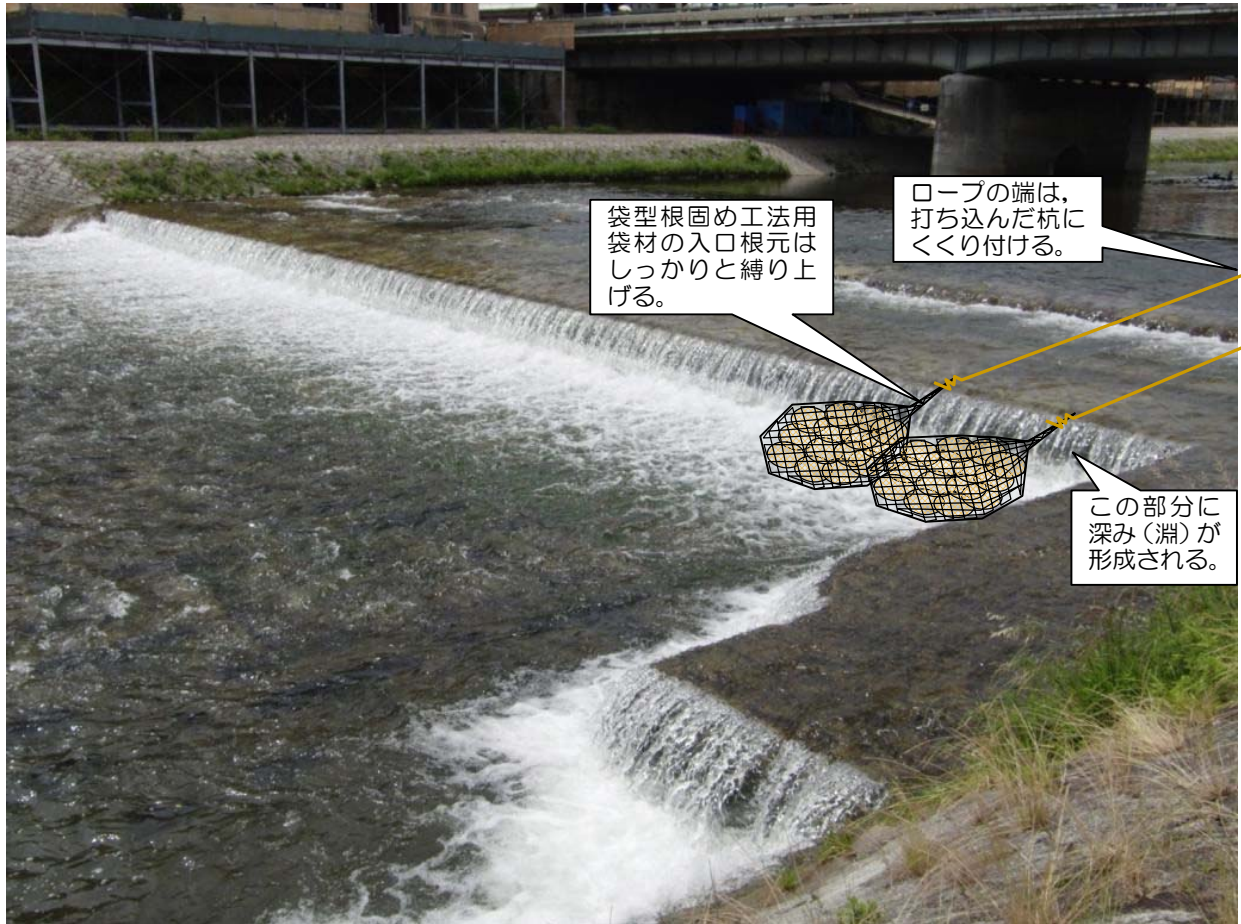


京の川の恵みを活かす会

平成26年度鴨川簡易魚道設置（天然アユの道づくり）計画

① 龍門堰（左岸） 木積み階段斜路複合式魚道 形状変更なし② 今井堰（左岸） 木組み階段式魚道 形状変更 昨年：土のう

③ 四条落差工（左岸） 土のう積み階段式魚道 形状変更なし



④ 三条落差工（左岸） 土のう積み階段式魚道 形状変更 昨年：ロープ



⑤ 丸太町落差工（左岸） 木組み階段式魚道 形状変更なし



⑥ 荒神口落差工（右岸） 木組み斜路式魚道 新規設置

